

スマイルプロジェクトだより

VoL.4

スマイルプロジェクトは、プライマリーナースを中心に日々のケアの中での学びや工夫を共有し、患者さんの笑顔につながる看護を広げていくことを目的に取り組んでいます。今年度は多くのスタッフの協力のもと、さまざまな実践を紹介することができました。今回で第4回、今年度最後のご紹介となります。1年間のご協力に感謝するとともに、来年度も皆さんと学びを共有しながら、より良いケアに繋げていきたいと思ひます。ぜひ日々のケアの参考にさせていただけたら幸いです。

プライマリーナースの 気づきからつながった創傷ケア



術後の創部離開がみられ、経過の中で褥瘡も発生してしまい、創部と褥瘡の両方をどのように改善していけば良いかと悩みました。患者さんは当初食事量が少ない様子もありましたが、比較的食事摂取は可能で、面会時にはカフェオレやココアなどの甘い飲み物を好んで飲まれている様子が見られました。WOCから栄養面からのサポートについてアドバイスを受けたことをきっかけに、患者さんの嗜好を踏まえて栄養士へ相談し、10時と15時に甘い補助食品を追加するなど栄養面にも配慮した関わりを行いました。患者さんからは「おやつがおいしい」との声が聞かれ、徐々に創の治癒が進む中で「傷が治ってきて良かった」と話される様子もみられました。当初は療養病院への転院を検討していましたが、全身状態も安定したため、施設へ退院することができました。今回の経験から、創傷処置では局所の処置だけではなく栄養面からの支援も重要であり、患者さんの嗜好など個別性に目を向けて関わることの大切さを学びました。

超高齢な患者さんの
創部離開と褥瘡ケア

3南病棟プライマリーNs

退院後を見据えたストーマケア支援



回腸導管造設後でストーマケアが必要な患者さんでした。独居であったため、退院後の生活を見据え、セルフケア習得ができなければ自宅への退院が困難になると考え、ケア習得に向けて支援を行いました。装具交換の練習を進める中で、患者さんはフランチのはめ込みに難しさを感じ、不安な様子もみられていました。そこで、WOCへ相談し、練習用装具を用いて繰り返し練習できるよう調整しました。練習を重ねることで手技への理解がみられるようになりました。しかし、ケア手技に不安があるため患者さんのゴールは、ケアの習得ではなく、社会福祉サービスを調整したうえでの退院支援と考え目標を修正しました。そこで、退院後も継続した支援が行えるよう訪問看護を導入することとなりました。患者さんからは「一人ではないから安心した」との言葉も聞かれました。今回の経験を通して、患者さんの生活背景や状況に合わせて支援を調整していくことの大切さを学びました。

2南病棟プライマリーNs

独居女性への
ストーマケア指導

編集後記

本年度、スマイルプロジェクトにご協力いただきありがとうございました。日々のケアの中での工夫や学びを共有することで、多くの実践を紹介することができました。これからも皆さんと学びを共有しながら、患者さんの笑顔につながるケアを広げていきたいと思ひます。困ったときや悩んだときは、いつでも相談して下さい。来年度もよろしくお願ひします。

編集担当CN：皮膚・排泄ケア